


児童相談所関連研修「司法面接（第3回）」

【日時】	令和2年12月17日（木）、18日（金）9：00～17：00
【会場】	特別区職員研修所
【受講者数】	38名
【講師】	<ul style="list-style-type: none"> ・立命館大学 総合心理学部 教授 仲 真紀子 氏 ・司法面接研修トレーナー 武田 知明 氏 ・中野区 子ども教育部 子ども家庭支援センター 職員 ・東京地方検察庁 職員 ・警視庁 職員
【研修内容】	<p><目的></p> <p>子どもの心理的負担に配慮しながら、多機関と連携し、虐待被害等の迅速かつ正確な情報収集を行う能力の強化を図る。</p> <p><内容></p> <p>①司法面接の概要と多機関連携の意義 司法面接の概要、多機関連携の意義、自由報告の練習</p> <p>②NICHHDプロトコルを用いた正確な情報の聴取 DVDを用いたミニ面接演習</p> <p>③面接の流れと計画の策定</p> <p>④児童虐待対応における東京地方検察庁と警視庁の取組み</p> <p>⑤子どもの面接演習とロールプレイ① 補助的な証拠に基づく聴取、 話さない子どもへの対応</p> <p>⑥子どもの面接演習とロールプレイ② 子どもから発せられる難しい質問への対応法、 研修のまとめ</p> <div data-bbox="1043 1274 1350 1503" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;"><面接演習の様子></p>
【受講生の声】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの言葉を引き出すときに、自分がいかにクローズド質問を使っていたのか気づかされました。オープン質問で子どもに語ってもらうことの大切さを学びました。 ・面接の演習を繰り返し行ったことで、具体的なイメージを持つことができました。また、他グループの様子を見ることで、客観的な視点を持つこともでき、自分の面接にも役立てることができました。 ・関係機関との連携は児童相談所の業務では必須なので、各機関の動き方や体制などを学ぶことができてとても参考になりました。